

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 柄杓田小学校 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数)

教科に関する調査(国語, 算数)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数)の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	11.0	69
全国	9.1	65	11.2	70

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・「書くこと」、「話すこと・聞くこと」の領域については概ね理解している。 ・「無回答率」が全国平均より高く、問題を正確に、素早く読み、条件等に合わせ記述することに課題がある。
	よくできた問題	・思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う問題。
	努力が必要な問題	・文中における、主語と述語や修飾と被修飾語の関係を捉える問題。学年別配当漢字を文中の中で正しく使う問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	・「図形」「データの活用」「測定」の領域については概ね理解している。 ・答えを短い言葉で記述する「短答式」の問題や、自分の考えや解き方を詳しく説明する「記述式」の問題について誤答、もしくは無回答率が高く、題意をとらえ、粘り強く問題に取り組むことについて課題がある。
	よくできた問題	・図形(三角形)の求め方を理解する問題。グラフから、終了を読み取ったり、項目間の関係を読み取る問題。
	努力が必要な問題	・複数のデータを比較し、示された特徴を持った項目とその割合記述する問題。割り算についての意味を理解する問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・寝る時刻や起きる時刻などが概ね規則的である。基本的な生活習慣の定着に向け家庭の協力が得られている。 ・家で自分で計画を立てて勉強する習慣が身につけている児童が全国平均に比べて低い。宿題等は習慣化されているが、自分で考えて学習を組み立てる手立てが必要である。 ・話し合う活動において友達と、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。また、学習した内容について、見直しを行い、次の学習につなげることができていることから、日々の授業の充実が図られ児童の「主体的に学ぶ態度」の育成に力を入れてきた成果が出てきている。 ・普段から本に慣れ親しみ、読書の習慣が身に付いている。年間を通しての読み聞かせや読書活動の充実の取り組みの成果が出ている。 ・学習の中でコンピューターなどのICT機器の必要性を認識しているが、普段、1日あたり学習でICT機器を使っている時間は少ないと感じている。児童には日常からタブレット端末の操作に慣れさせると共に、教員のICTの能力のさらなる向上に努める必要がある。 ・将来の夢や目標を持っており、人の役に立ちたいと考えている。また、自分の思っていることや感じていることなどきちんと言葉で表すことができおり、自分と違う意見について考えることを楽しいと感じている。小規模の学校の特性を生かし、きめ細やかに教職員が児童のことを理解して指導している成果が現れている。 ・難しいことや失敗をチャレンジすること、また、進んで手助けするなどの思いはあるが、実行することに課題がある。一人一人が自分のよさを感じ、自信を持って行動することのよさを全教育活動、特に特別活動等の充実を図っていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・各教科について、基礎・基本の学習の徹底を図ると共に、授業の中で自分の書いたり、伝えたりする活動を取り入れる。 ・北九州市「学びの質を高める授業づくり」の5つのポイントに基づき、教師の授業の質をさらに高める。 ・学習中のタブレットの有効活用し、情報活用能力を高める。・学習終了後5分前の振り返りの充実を図る。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信、学校HP、個人懇談会などで、学校が家庭と連携を取り、家庭学習の充実の啓発を行う。 ・家庭学習チャレンジハンドブックの活用を継続し、子どもたちが自分で計画して自主的に学習に取り組むように指導をする。
